

第1回鹿児島市シティプロモーション懇談会を開催 鹿児島市のファンを増やす提案

鹿児島市は都市としての認知度やイメージの更なる向上と、それによる交流人口・関係人口の拡大等を図るため本年度、シティプロモーションの指針となる戦略の策定を予定しています。この戦略策定にあたり地方創生・ブランディング・ICT・メディア・観光等の各分野の各有識者の識見を参考にするため「鹿児島市シティプロモーション懇談会」を7月31日、鹿児島市役所で初めて開催しました。

<懇談会の様子>



懇談会は座長の藻谷浩介氏をはじめ県内外の9人の委員が出席して行われました。委員からは従来の観光による交流人口の他に、地域外から何らかの関わりを持つ人々を指す「関係人口」という考え方を取り入れるなど、鹿児島市のファンを増やす取り組みが大切との意見が出されました。また、方言や郷土料理など独特な地域性を逆手に取り「鹿児島市を日本の中の「外国」としてPR」する案や「鹿児島湾と桜島で開催するトライアスロン」などファン作りのきっかけとなる様々なアイデアの他、若者の関心を引く手段としてインターネットを介したSNSや動画の活用などについても活発に意見が交わされました。今後、市はシティプロモーション戦略の素案をとりまとめ、意見公募を経て本年度中の策定を予定しています。有識者委員は以下の通りです。

藻谷浩介(もたに・こうすけ)【座長】

(株)日本総合研究所主席研究員 <地方創生>

1964年山口県生まれ。東京大学法学部、米国コロンビア大学大学院修了。平成合併前3,200市町村のすべて、海外95ヶ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振興などに関し、精力的に研究・著作・講演を行う。2012年より現職。著書に「デフレの正体」、「里山資本主義」(KADOKAWA)、「観光立国の正体」(新潮社)など。近著に「世界まちかど地政学」(毎日新聞出版)。南日本新聞の「朝の文箱」2018年度の執筆者の一人。



徳山美津恵(とくやま・みつえ)

関西大学 総合情報学部教授 <ブランディング>

学習院大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学後、名古屋市立大学大学院経済学研究科講師、同准教授、関西大学総合情報学部准教授を経て現職。専門はマーケティング・ブランド論。丹波市創生シティプロモーション戦略委員(2017年～)、名古屋市都市計画マスタープラン検討部会委員(2018年～)を務める他、学生たちと丹波市でのブランディング活動に取り組む。著書には「プレイス・ブランディング」(2018年、有斐閣、共著)などがある。



指出一正(さしで・かずまさ)

月刊「ソトコト」編集長 <メディア>

雑誌「Outdoor」編集部、「Rod and Reel」編集長を経て、現職。島根県「しまこアカデミー」メイン講師、高知県文化広報誌「とさぶし」編集委員、静岡県「『地域のお店』デザイン表彰」審査委員長をはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。まち・ひと・しごと創生本部「わくわく地方生活実現会議」委員。著書に「ぼくらは地方で幸せを見つける」(ポプラ新書)。



松山良一(まつやま・りょういち)

学校法人 国際大学理事 <観光>

1949年鹿児島市生まれ。ラ・サール高校、東京大学経済学部を卒業後、三井物産入社。1995年イタリア三井物産社長、1999年三井物産広報室長、2004年米国三井物産副社長、2005年三井物産九州支社長を歴任する。2008年には駐ポツワナ特命全権大使に就任し、南部アフリカ開発共同体日本政府代表を兼ねる。2011年10月より2018年3月まで独立行政法人日本政府観光局(JNTO)理事長として、インバウンド観光振興の旗振り役を務める。2018年4月より国際大学理事を務める。



境治(さかい・おさむ)

コピーライター・メディアコンサルタント <ICT・メディア>

1962年福岡市生まれ。ラ・サール高校、東京大学文学部を卒業後、1987年、広告代理店I&S(現I&S BBDO)に入社しコピーライターとなる。1992年TCC新人賞を受賞。翌年独立し、フリーランスとしてCM・ポスターなどの制作に携わる。2006年は株式会社ロボット、2011年からは株式会社ビデオプロモーションに在籍。2013年7月から再びフリーランスになりメディアコンサルタントとして活動。テレビとネットの融合を業界に訴えている。近著「拡張するテレビ」



松山奨(まつやま・すすむ)

UUUM(株)執行役員 事業開発担当ライブエンターテインメントユニット統括 <ICT・メディア>

1981年生まれ。2003年、中央大学卒業後に松屋銀座へ入店。2005年に楽天株式会社に転身しECコンサルタントとして楽天市場のすべてのジャンルを担当。支社立上げ責任者や営業部長を歴任後、2012年ジャスダック上場のスタイライフ株式会社取締役副社長に就任し、楽天グループへのPMI責任者として黒字化を果たす。その後、スタイライフ事業長、楽天市場事業ファッションジャンル領域全てを統括する事業部長となる。2017年7月、動画ビジネスを通じて世界をエンパワーメント出来ると感じ、UUUM株式会社入社。



伊藤香織(いとう・かおり)【7月31日は欠席】

東京理科大学 理工学部建築学科教授 <都市デザイン・シビックプライド>

東京都生まれ。東京大学大学院修了、博士(工学)。東京大学空間情報科学研究センター助手などを経て現職。専門は都市空間の解析及びデザイン。特に公共空間と都市生活の関わり方に着目する。主著に『シビックプライド:都市のコミュニケーションをデザインする』『シビックプライド2【国内編】:都市と市民のかかわりをデザインする』(宣伝会議)など。東京ピクニッククラブを共同主宰し、公共空間の創造的利活用促進のプロジェクトを国内外の都市で実施。



ジェフリー・S・アイリッシュ

鹿児島国際大学教授、ノンフィクション・ライター、民俗学研究者 <地域振興>

1960年米国カリフォルニア生まれ。1982年、エール大学を卒業後、清水建設に入社。30代より鹿児島県下飯島で定置網の仕事に就き、その後ハーバード大学大学院と京都大学大学院で民俗学を専攻。1998年より鹿児島県川辺町に移り住み、土喰集落の小組合長を2回務めた。日々の生活や田舎暮らしなどを南日本新聞に9年間連載。日本の知識人、梅棹忠夫や加藤周一などのインタビュー記事を英字雑誌に掲載。2010年から鹿児島国際大学で地域創生、まちづくりなどについて教えている。2010年度南日本文化賞受賞。2016年度南日本出版文化賞受賞。



西みやび(にし・みやび)

西みやび事務所代表 <メディア・観光>

1961年鹿児島市生まれ。鶴丸高校・立教大学卒業。毎日新聞社東京本社に記者として勤務後、28歳でUターン。南日本出版に編集長として採用され、1990年鹿児島で初めてのカラーページの情報誌「LEAP」を創刊。翌年、取締役役に就任。2014年LEAP出版設立。同社社長を経て、2018年より文筆家&観光アドバイザーとして独立。KKB鹿児島放送番組審議会副委員長、エフエム鹿児島番組審議会委員、鹿児島県観光立県推進会議委員、鹿児島県情報公開個人情報保護審査会委員、鹿児島市都市計画審議会委員ほか。



永山由高(ながやま・よしたか)

一般社団法人 鹿児島天文館総合研究所Ten-Lab理事長 <地域振興・ICT>

1983年鹿児島県生まれ。鶴丸高校・九州大学法学部を卒業後、日本政策投資銀行へ。都市開発部・中国支店(企画調査課 副調査役)を経験したのち、退職。2011年より現職。同年よりMBCラジオRadio Burn コメンテーター。2014年より、鹿児島県民170万人の0.01%にあたる170人で街の未来をつくるプロジェクト「鹿児島未来170人会議」実行委員長。鹿児島県内10か所以上でコミュニティデザインを手掛ける。2017年「MBC賞」受賞。



【本件に関するお問合せ】

鹿児島市広報戦略室

担当：主査 瀬戸口 拓也 TEL. 099-803-9546 FAX. 099-216-1134 取材対応者：室長 小村 真二